

県本土での年内収穫に向けた無加温栽培におけるカンキツ「津之輝」の特性

県本土では無加温栽培により、カンキツ「津之輝」の年内収穫が可能

背景・目的

- ・県本土における露地栽培のカンキツ「津之輝」((清見×興津早生No.14)×アンコール)の収穫期は年明けとなる
- ・無加温栽培における年内収穫を検討し、果実品質や階級割合などの特性を明らかにする

成果の内容

無加温栽培することにより

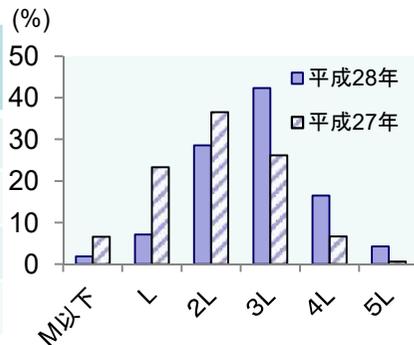
- ・開花盛期:4月上旬
- ・収量:約30kg/樹(樹齢7年生)
- ・中心階級:2L~3L(26~30個/m³)
- ・収穫時期:12月上旬
- ・糖度:10~12度
- ・クエン酸含量:0.7~1.0g/100ml



「津之輝」の樹姿と着果状況

無加温栽培した「津之輝」の階級別果実品質

階級	果実重 (g)	果皮色	糖度 (° Brix)	クエン酸含量 (g/100ml)
L	146	濃橙	11.6	0.97
2L	171	濃橙	11.3	0.89
3L	229	濃橙	11.1	0.81
4L	278	濃橙	10.7	0.80



無加温栽培した「津之輝」の階級構成

注) 1 平成27~28年の2カ年分の平均
2 調査日:平成27年12月11日, 28年12月8日

導入メリット

年末の贈答期における高級果実として出荷できる



無加温で年内収穫
橙色が濃く, 2L~3L階級で見栄えが良い
種なしで果肉はとてもジューシー
風味があり食味が良い

期待される効果

無加温栽培で年末贈答期の出荷が可能となる

普及対象・範囲
カンキツ生産者・県本土